

# 書字に困難を示すTさんが自ら書こうとするまでの指導

## ～心理面を尊重した取組～

蔵王町立宮小学校 講師 近江 由美

### 1 はじめに

本児は昨年度より情緒障害学級に在籍している。1年生の後半から登校しぶりが始まり2年生時には登校しても10分ほどで下校するくらい学校そのものが嫌いという状況であった。

病院での受診により学習障害と診断され、その後、自閉症スペクトラム症と診断され現在に至る。日常生活全般に、自分なりのルールを持ち出し学習に対しても、興味や関心が持てない教材には見向きもしないという状態だった。

しかし、児童の気持ちを尊重し、苦手としている「書くこと」を克服する教材と一緒に考えていった結果、現在は原稿用紙半分くらいの量であれば書くことができるようになり、書くことに苦手意識がなくなってきた。

### 2 主題設定の理由

Tさんに初めて会った時の印象は、笑わない子だな、子供らしくない子だなという感じだった。初めての人にはなかなか心を開かず、自分が苦手としていることをやらされるのではないかと、苦手としていることがあることがばれてしまうのではないかと、それを隠そうとしているような印象がとても強かった。

2年時までは通常の学級に在籍していたが、苦手なこと（特に漢字の学習や掛け算九九の暗記等繰り返し努力する必要があるもの）が増えてくることで、不登校になっていた。中でも漢字をはじめ、書くことが非常に苦手だった。読むことはできる、でも書けない。他のことはみんな以上にできるのに、なぜなのか2年生の子供には理由が分かるはずもなく、そのことから生活全般にやる気がなく、ゲームで劣等感を紛らわしているようだった。

「書けないから勉強が嫌い、学校が嫌い。だから中卒でいい。」と話していた。そんなTさんを見ていて、書くことができるようになることで自己を肯定しながら、苦手なことがあっても自分も認めることができるようになるのではないかと考えた。

そこで、Tさんは書くことのどの部分が苦手なのかを分析し、心理的な負担を軽減すれば書くことができるようになるのではないかと考え本研究主題を設定した。

### 3 研究目標

- ・WISC-IV及びWAVESの検査結果や書いた文字からTさんの書字に対する実態を把握し興味関心を高める。
- ・心理的な負担や抵抗感を軽減する教材を作ったり学習させたりすることで、文字をマスの中にバランスよく書くことができる。
- ・思い描いたことを文字に表す時間を短くでき、書くことを意識できるようにする。

### 4 研究計画

前期：令和2年4月～令和3年3月

後期：令和3年4月～令和3年10月

前期	①実態を把握しながらひらがなやカタカナの書く活動を行うと共に、粗大運動や微細運動など書くための土台づくりを行う。 ②上手く書けないことや形を捉えることができないことから書くことが心理的に負担にならないようにする。 ③1年生に入学してくる弟の課題と重ならないようにゲーム的な要素を多くする。 ④ビジョントレーニングやグリッド点結びなどを家族で取り組んでもらうことでTさんの実態を知ってもらうようにする。
後期	①書く量を増やしていく。 ②穴埋め的なワークシートの利用をする。 ③パソコンを利用して作文を書かせ、代替え機器の利用が可能なことを理解させる。

### 5 研究の実際

(1) WISC-IV及びWAVESの  
検査結果から

【WISC-IV】

◇全検査	102
言語理解	119
知覚推理	93
ワーキングメモリ	103
処理速度	88

「下位検査プロフィール」

類似	16
単語	10
理解	14
積み木模倣	7
絵の概念	12
行列整理	8
数唱	11
語音整理	10
符号	7
記号探し	9

【WAVES】

◇指数			
目と手 総合 視知覚	105		
目と手 全般	107		
目と手 正確性	92		
視知覚	107		

「下位検査」

線なぞり	15
形なぞり	7
線なぞり比率	9
形なぞり比率	8
数字見比べⅠ	12
数字見比べⅡ	14
形合わせ	12
形さがし	10
形づくり	12
形みきわめ2分	12
形おぼえ	8
形うつし	9

(2) 検査結果の分析

(検査者からのアドバイスによる)

WISC-IVの検査結果

・個人内差がとても大きい。言語理解と処理速度の差が31と大きく、そのため全検査IQは【参考値】となる。

◇得意なこと：言葉を使った概念化能力に優れている。

◆苦手なこと：視空間認知力

(空間をイメージする力)

図形同士のパターンを見出す力、記号や文字を書き写すことに不得意さが見られる。

WAVESの検査結果

・「指数」より

◆目と手の協応さが必要となる課題において正確性を求められる課題が困難である。

・「線なぞり」「形なぞり」の検査結果より

◆持続的に行う眼球運動、持続的な上肢操作や基になる姿勢に関する課題がある。

特に「線なぞり」では曲がり角での場面で線から外れる傾向がある。

・「形みきわめ」より

◆細かい図形になると間違いを見付けられない。

・「形おぼえ」

◆形・位置・方向を見分けることに疲労が多く見られる。

・「形うつし」

◆書き写した図形から、形・空間を見て形を写すことに苦手さが見られる。

◆斜めや図形の組み合わせが複雑になると再現することが難しい。

・「全体として」

◆多くの情報から目的とする対象を抽出することや頭の中でイメージ処理して行う作業、また手先で道具を操作するための姿勢や手指機能に苦手さがあると予想される。

(3) 指導の指針

WISC-IVやWAVESの検査結果より様々な困難さがあることが分かった。

また、目と手の協応がうまくいかないこと、手先が不器用であることも分析されている。このようなTさんにどのような教材やアプローチが有効なのか。教材はどのようなものが関心や意欲につながるのか。

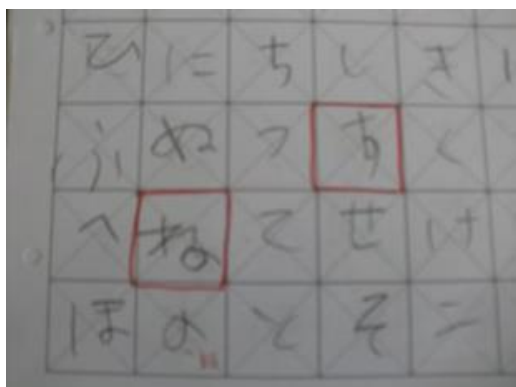
Tさんの場合は、書字そのものも含め全般的に自己肯定感が低いことから、課題に対し「できた」「前よりも伸びた」と感じることで達成感を味わわせ、その感情を積み重ねることによって自己を肯定的に捉え「自分はできるんだ」という自信を持たせることが重要であると考えた。その上で、書くことに関して、書くことができるまでの必要な要素の発達を促すことにより、バランスよく文字が書けるようになったり意識を集中して自分の頭の中で思い描いている文字や文章を抵抗なく表出できるようになったりすると考えた。

そして、「どうせ自分には書けない」というネガティブスプリットな思考から、「僕はできる」「もっと書ける」というポジティブな思考へと移行し、「書くのはいやじゃない」「書いておこうかな」と考えることができ、書くことの困難さを克服・改善できると考えた。

#### (4) 具体的な取組と支援

〈令和2年6月頃〉

\*取組と支援、●OTさんの様子「 」



\*斜め線が特に捉えにくいいため、マス目は通常の十字のものではなくエクセルにて斜め十字のマス目を作成した。十字のマス目はどこがスタートになるか分かりにくい。斜めマス目は比較的スタートが分かりやすい。

●「『す』『ね』どこでカーブするか分からない。」

「斜めの線で書きやすい。『め』や『の』は線があるのでいいな」

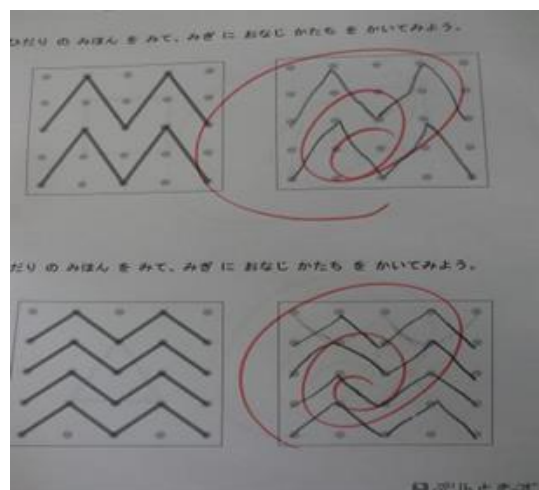
斜め線のマス目により文字を書くことに取り組み始めた。



●「『み』や『ゆ』どこで交わっているのかわからない。」

「『ゆ』なら縦書いて、ぐるっと回って真っすぐ棒だね。言葉で言ってもらえると分かりやすい」

\*見て書くのではなく言葉で伝える方法が分かりやすかった。



\*グリッド点結びにも取り組む。ゲーム感覚で取り組ませた。

●斜めになると苦手。定規も上手く使えないためにフリーハンドで書いている。

●下の図は、最初逆に点をつないでいた。「線が何本あるか分からないよ。斜めはやっぱり難しいなあ。」

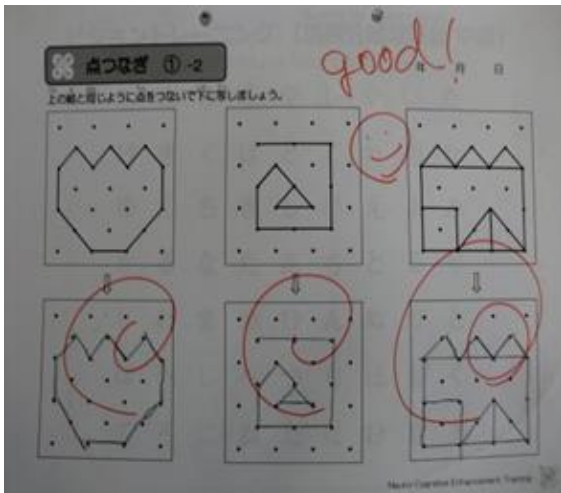


\*数字探しは一番好きな学習だった。このトレーニングの後は文章を読むのが速くなった。

回	時間	かんそう
1	8分 16秒	
2	7分 10秒	
3	4分 9秒	うれしい!!
4	分 秒	
5	分 秒	

\*保護者にも、一緒に取り組んでもらったり時間を計ってもらったりしたおかげでTさんの苦手な部分を理解してもらえ、協力して支援ができた。

○時間が短縮して喜ぶ。「やった!」と意欲につながった。



○グリッド点結びはみるみる上達していった。  
○短い線なら定規で点をつなげるようになった。15センチの定規を使用している。「短い定規ならうまく押さえられるよ。」

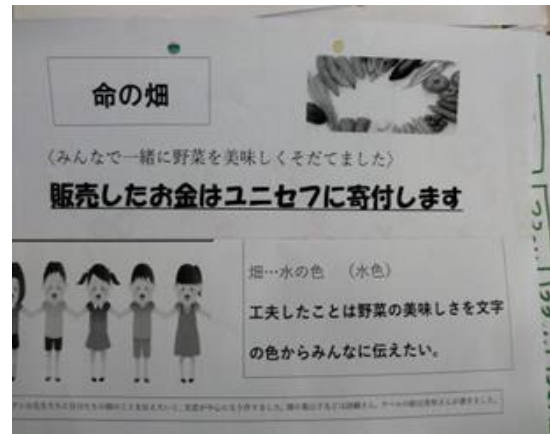
\*目と手の協応動作も苦手だったが、好きな大作業で線を真っすぐ引いて板を切る。釘を押さえて打つ、等両手を同時に使う作業を多く取り入れた。



●ビジョントレーニングのひらがなは一度取り組み、やりたがらなかったのをやめる。

\* (無理強いはいしない)

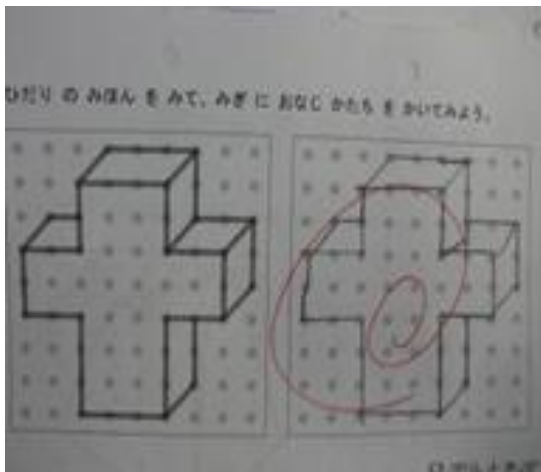
「ひらがなは無理。何が何だか、分からない。」  
\*ひらがなのビジョントレーニングもできるかとやってみたが、上手くいかなかった。嫌いにならないといいな…と心配になる。



\*文字は自分の思うように書けないが、書いて自分の思いを表したいという気持ちが出てきたようだったので、パソコンで書けばいいのではないかと提案した。

○パソコンを利用すれば、書いて伝えることを知り、ポスターや広告などを積極的に作る。「クラスの畑の宣伝チラシを作りたい。」  
「パソコン入力なら楽しいし、きれいにできるからいいね。気に入った。」

\*自分から～をしたいという気持ちが出てきた。入力作業を覚えるために、ローマ字を必死に覚える。自分が必要と感じれば一生懸命に努力する姿勢が出てきた。



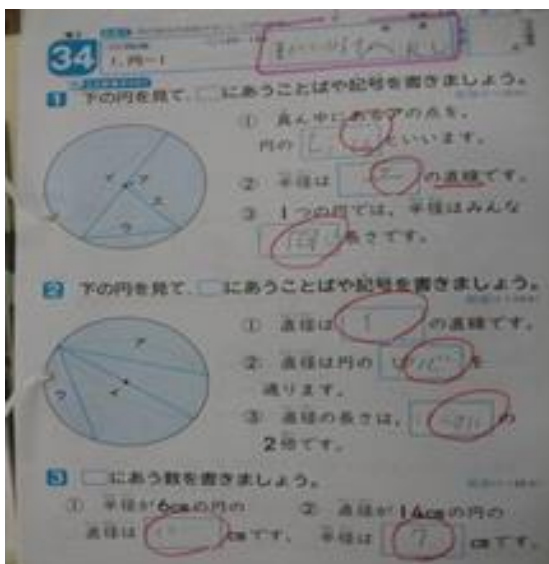
\*点結びをやり始めて2カ月位経った。自信も付き1日1枚だったのが2枚取り組むようになった。

○自信がついてきて「難しいものにチャレンジしたい。」と話す。筆圧もしっかりしてきており定規の扱い方も上手くなった。

\*鉛筆は公文の三角鉛筆4Bを使用させていた。(本人が使いやすいと話す。)

○正確に速く書くことができるようになる。「分かってきたよ。楽勝!もっとやりたい。」

○学校の全てが嫌いと言っていたTさんに変化がはっきりと表れてきた。



○書くことに自信がついてきてテストも取り組むようになる。

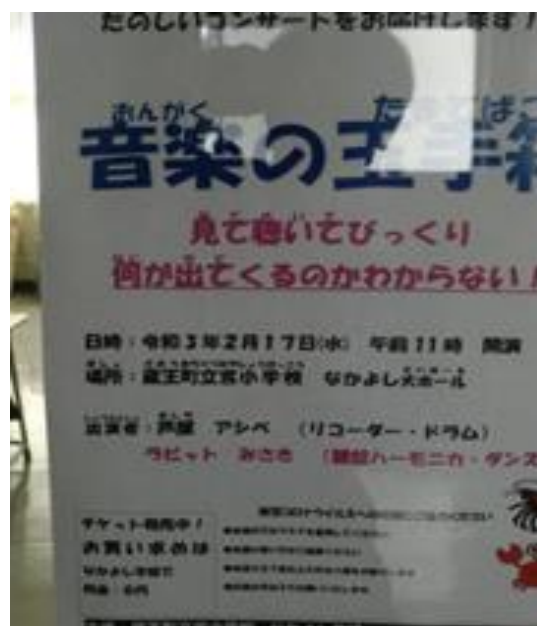
「記号だけなら書けるよ。テストをやったの久しぶりだなあ。」

\*名前をローマ字で書き、自分ができるようになったことを見せたい気持ちが伝わる。

\*学習は学年相当のものができるようになってきた。できないことを隠そうとしなくてもよくなったからか、できないことを素直にできないと言い始める。



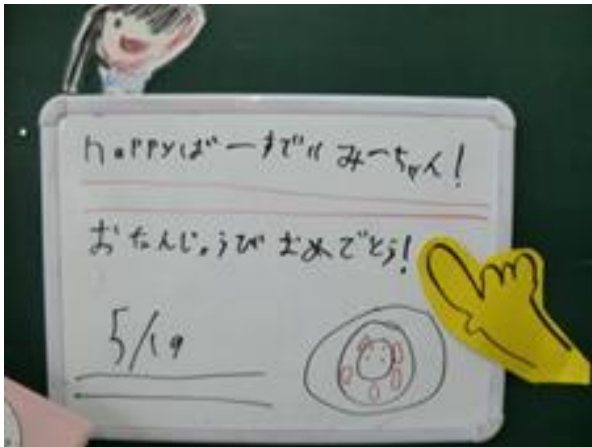
(苦手な絵もコンパスを使って描いてみた。)



\*パソコンの入力はローマ字入力を習得しレベルの高い物を作ることができるようになる。

「ワードの他にエクセルも覚えたいなあ。」

\*リコーダーにも挑戦し、参観日にリコーダーのコンサートを開いた。上はその時のポスター。披露した曲は『カントリーロード』保護者の目の前で演奏し満足げだった。



\*教室の掲示物なども積極的に書くようになった。意図的に給食の献立を書かせたり、工作の手順を書かせたりした。

「happy ばーすでい」と、覚えてたの英語でクラスメイトの誕生日をお祝いメッセージを書く。右下にはケーキ。黄色い指は割り算で使用しているもの。絵も描くようになる。

○「もう書いた文字をみられるのも大丈夫だよ。」



○ローマ字を書くことにも取り組む。ひらがなや漢字と同じように形を捉えるのが苦手な様子が見え始めるが一生懸命書いている。

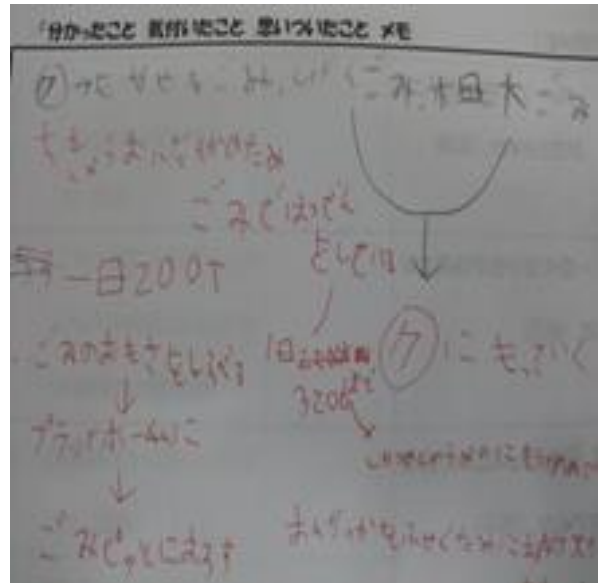
「ローマ字入力パソコンでできるようになったから書くのもやってみよう。」

\*『寿司打』というゲームでローマ字入力は学習した。

○社会科見学でA4用紙いっぱいメモをとる。漢字を使っていることが見える。

「ボールペンだと小さな文字も書けるよ。」

「プログラミングに役立つ内容もあったからメモしてきたよ。」



\*ひらがなを書くことも嫌がり、また書けなかったTさんが説明を聞きながらメモを取れるまでに成長した。⇒を使ったり、クリーンセンターを略したりと自分なりに工夫している。さらにプログラミング大会に応募した内容に付け加えようと思う情報も聞くことができたということも話していた。

学習を関連付けるような意欲も出てきた。

#### (5) 筆記具やその他の支援

- ・筆圧が弱かったことから公文の三角鉛筆4Bを使わせるところ、書きやすいと使用していた。最近は軽いボールペンを使用している。
- ・下敷きの代わりに紙やすりを使用している。「はらい」の感覚を紙の下でひっかかりがあるので手で覚えることができた。

#### (6) 声かけの支援

- ・テストも書くことを強制せず、口頭で答えることで良いとし、自信が付き「自分からく」「書きたい」という様子が見えるまでは無理に書くことはさせなかった。

#### (7) 他の支援

- ・目と手の協応動作のために、興味が合った大工作業で釘打ちをたくさんさせ、本棚やポストを作製した。作ると感謝され自己有用感が高まっていた。
- ・苦手なことがあっても、それに代わる得意なことがあればいいということ話し、「自分ではできない」という気持ちを持たないように、Tさんと保護者を支援した。

## 6 研究のまとめと成果と今後の課題

検査結果から T さんの困難なことを分析し、筆記具の工夫や書くことについて取り組みやすい量や内容で指導した結果、「書くことは苦手ではない。」「書いてもいいかも。」という気持ちが高まり、それと共に自分が得意とすることにも積極的に取り組む姿も見ることができるようになった。今後は速く書くことができるようになることが課題だが、変容を見ながら慎重に進めていきたい。

今回、マス目を斜め十字にしたり紙やすりを下敷きがわりにしたりするなどの工夫をすることにより効果が見られた。最後に漢字の学習には罫線が全くない自由帳が書きやすいという結果になった。理由を尋ねるとマス目や罫線があると「マスに入れたり罫線に沿って書いたりしなければいけない」というプレッシャーを感じて書けなくなってしまうから、というものだった。指導する側としてはマス目や罫線があれば書きやすいだろう、文字の形は整いやすいだろうという先入観から市販の用紙を渡し当然のように指導してしまう。

個々に応じた指導とはよく言われるが、T さんの指導によって、個々に応じた指導の中身をしっかりと検討する必要がある。今後も個々の実態に応じた指導方法や教材を更に研究していきたい。

## 7 おわりに

大人びた表情で、笑ったりふざけたりしなかった T さんだったが、最も苦手としていた「書くこと」へのプレッシャーが少なくなったことで様々なことにも挑戦するようになった。夏休みにはキャンプに出かけたり海で泳いだりと、子供らしい活動をするようになった。

自分には苦手なこともあるが得意なこともあると思えるようになったことで周りの友達にも、「苦手なことってあるよね。」と、とても優しくなった印象がある。一番変わったことは一日 12 時間も没頭していたゲームをやらない日が出てきたことだ。理由を聞くと、ゲームの世界より人と関わって笑ったりふざけたりするほうがずっと楽しいという言葉が返ってきた。そこにはいつも優しく見守ってくれた M さんの存在が大きい。

もう一つは、得意なパソコンの知識を「プログラミング大会」に参加するというこ

とも欠席ゼロの記録を伸ばし続けている。この記録がずっと伸びてゆくことを願って今後も見守っていききたい。

(※本研究については、T さんの保護者に検査結果の利用、および研究論文として発表することについて承諾を得ている。)

### 【参考】

#### WAVES (視知覚検査)

##### 領域 7 項目

「目と手の協応」	: 目と手を連動させて動かす力
「眼球運動」	: 視線を正確にすばやく移動する力
「視覚的注意」	: 大事な部分に注目し注意を向ける力
「形態知覚・形態認知」	: 見た形を頭にイメージする力
「空間知覚・空間認知」	: 位置や空間を捉える力
「視覚性記憶」	: 見た情報を記憶する力
「図形構成」	: 図形などを見て書き写す力

##### 下位検査 10 種類

「線なぞり・形なぞり」	: 目と手の協応について測定
「数字みくらべⅠ」	: 処理速度、短期記憶、視覚的注意について測定①
「数字みくらべⅡ」	: ①に加え、より複雑な視覚的注意について測定
「形あわせ」	: 単純な形や位置関係、方向などを見分ける速度について測定②
「形さがし」	: ②に加え視覚情報の選択をしながら見分ける
「形づくり」	: ②に加えかけている部分を予測してイメージしながら見分ける
「形みきわめ」	: 複雑な位置関係、方向などを見分ける正確性について測定③
「形おぼえ」	: ③に加え記憶にとどめておく力について測定
「形うつし」	: ③に加えさらに書き写す力について測定

(宮城県立子ども病院資料より)